

# 「つらかったら逃げて」

直木賞作家・村山さん

## 仁愛女と北陸高生に講演

高校生のための文化講演会「ツ橋文芸教育振興会、福井新聞社共催」が23日、仁愛女子高と北陸高で開かれた。直木賞作家の村山由佳さんが講師を務め「つらいことがあったら逃げればいいよ」と優しく呼び掛けた。

村山さんは東京都出身。立教大卒業後、塾講師などを経

て作家デビュー。1993年に「天使の卵―エンジェルズ・エッグ」で小説すばる新人賞、2003年には「星々の舟」で直木賞を受賞するなどしている。

仁愛女子高では全校生徒約1170人が聴講。村山さんは小説を書き始めたきっかけについて「厳しい母から逃げるた



「つらいことがあったら逃げればいい」と優しく語りかける村山さん＝23日、福井市の仁愛女子高

めだった。小説世界の中だけは自由でいられた」と話した。塾講師時代には、信頼してくれた女子生徒が自殺したという話を披露し「本当につらかったら死ぬ前に逃げて。その次は全力で自分が生きるにふさわしい場所を探して」と訴えた。

東日本大震災の後、ものが書けなくなった村山さんだったが、仙台市でのサイン会で、泥が付いた自身のデビュー作を手につつ男性と出会ったエピソードを紹介。「男性から『震災の時、リュックにこの本を入れて逃げた。正気にな

れるのはこの小説の中だけだった』と言われ、涙が止まらなかった。ありつたけの想像力で人と向き合い、言葉を発していくべきだと教えられた」と話した。

両校には、同振興会から文庫本各100冊と村山さんの著書が寄贈された。講演会は、同振興会と各地方新聞の共催で、毎年全園80校以上で開かれている。(堀英彦)